



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク  
**あったかウェルねっとニュース 第37号**

2022年2月19日発行

ホームページアドレス <http://attaka2018.starfree.jp/>

2011年3月11日の東日本大震災より11年になろうとしています。失われた多くの尊い命のご冥福を祈り続けるとともに、一日も早い被災地の復興・復旧を願い、被災された皆様の安心安全を心よりお祈り申し上げます。

あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

### 不易流行～ねっと21年目の思い～

彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク(あったかウェルねっと)  
 相談役 坪井 敏衛

あったかウェルねっとには21年の活動実践があります。時代によって、あるいは場所によって活動は変化することも踏まえ、多くの実践事例を提示し、身近な福祉実践につなげられるよう研鑽に努めています。活動の根底には「いろいろな人たちと力を合わせながら、誰もが安心して楽しく豊かに暮らせるまちをつくっていくこと」という思いがあります。幸いにも、あったかウェルねっと会員は教員、社協職員、ボランティア、福祉サービス利用者、施設職員等多様です。それぞれの立場の人の実践を尊重し、協力して課題の共有化と解決に向けて協同実践する態勢ができています。

「一人ひとり違う人間、みんなみんな同じ人間」。人は個人として尊重されなければなりません。「ふだんのくらしのしあわせ」は福祉の真髄です。変化の激しい現代社会には福祉の課題が山積しています。微力である一人ひとりであっても、話し合い力を合わせ、今後とも豊かな福祉観に立ち活動していきます。

## 予告 2022年度総会・研修会

申込み受付は新年度になってから行ないません。コロナ感染状況により開催方法が変更となる場合もあります。

今のうちに、ご予定に入れてくださいネ!

### 日程・内容の予定 2022年度ねっと総会・研修会について

2022年あったかウェルねっと総会および研修会を以下のように予定しています。(詳細は後日)

日時：2022年(令和4年)5月14日(土)

会場：すこやかプラザおよびオンライン

9時30分～10時20分 2022年度ねっと総会

11時00分～16時00分 研修会

研修会テーマは、「つながり広げる福祉教育～埼玉県福祉教育とあったかウェルねっと～」、講師は以下の方々です。

原田正樹氏(日本福祉大学/日本福祉教育・ボランティア学習学会会長)

熊井英朗氏(埼玉県社会福祉協議会地域福祉部長)

佐藤陽氏(十文字学園女子大学/日本福祉教育・ボランティア学習学会埼玉大会実行委員長)

対談・講演・グループワーク・ラウンドテーブルセッションを予定しています。是非、スケジュールのご準備を! ※申込み方法は4月以降に!

## 報告 学会第27回埼玉大会

2021年11月27日、28日に日本福祉教育・ボランティア学習学会第27回埼玉大会がオンラインでおこなわれました。あったかウェルねっとはこ

の学術大会実行委員会に参加し、学会理事の諸先生方のご指導を仰ぎ、特別課題別研究などの埼玉企画に参画しました。横田八枝子ねっと代表が埼玉大会の大会長を務めました。

## 日本福祉教育・ボランティア学習学会 埼玉大会が行なわれました。〈報告その1〉

埼玉大会大会長/あったかウエルねっと代表  
横田八枝子

2021年日本福祉教育・ボランティア学習学会の開催地が埼玉県に決まり、2021年2月から実行委員会がスタートし、「第27回埼玉大会」テーマ『多様な立場の市民が創る、ふくし・共生の文化～お互いにエンパワメントしあう福祉教育・ボランティア学習の可能性～』に向けて準備が始まった。

会報36号(前号)に掲載のとおり、第12回埼玉大会の共催団体として参加。あれから15年を経て、「第27回埼玉大会」では、埼玉県社協・市町村社協・若福研・関連団体が「チーム埼玉」として県域での実践研究をまとめ、全国に向けて発信した。

開催は、コロナウイルス感染拡大収束を予測できず、昨年同様、Web会議システム(Zoom)を用いたオンラインで、学会員対象になったが、関係者を含め170名余りの参加者と学びあい、研究・交流できた。

「あったかウエルねっと」は、2001年設立より「共に生きる」「ノーマライゼーションの具現化」「ふだんのくらしのしあわせ」「協同実践」を目指し、県域で福祉教育・ボランティア学習推進への「学びと実践」を継続してきたが、2020年は「コロナ禍」という大きな宿題をもらった。

そこで「あったかウエルねっと」は、コロナ禍でもオンラインで活動を続け、これまでの学びと繋がり力を、第27回埼玉大会大会長を受けることにした。

それは、大会テーマ『多様な立場の市民が創る、ふくし・共生の文化～お互いにエンパワメントしあう福祉教育・ボランティア学習の可能性～』は、「あったかウエルねっと」20年の実践研究であり、これからも変わらないテーマだからです。

### 第1日目(11月27日)の報告

**開会** 日本福祉教育・ボランティア学習学会会長原田正樹先生のご挨拶に続いて、大会長横田挨拶。

### 基調報告

「埼玉県の福祉教育・ボランティア学習の経緯と特色について」 佐藤陽氏

日本福祉教育・ボランティア学習学会常任理事  
第27回埼玉大会実行委員会実行委員長  
十文字学園女子大学人間生活学部

### 基調報告より抜粋

「埼玉県の福祉教育・ボランティア学習の推進は、ボランティアの促進からはじまり、学校を含む地域社会で、障害のある人も高齢の人も一人の地域の主人公と位置づけ、お互いの協働の関係が、自立を図ることで共通しており(共生の文化づくり)、住民自身のお互いの関わり合いの中で行なわれる(ふだんのくらしのしあわせ)ものであるとして、常に学習を実践に紡いできた。」

**1972-1989** ボランティア体験から学校と地域における福祉教育の推進

**1990-2002** 社会参加の促進とともに地域における福祉教育・ボランティア学習の推進

**2000-2011** 埼玉県社協 福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修

**2001-現在** 地域ぐるみの学習を実践に紡ぐプラットフォーム

### シンポジウム

テーマ「ふくし・共生の文化を創成する」～多様な立場の市民が主体的に学習と実践を紡いで～

#### シンポジウム「4つの柱」

埼玉県では、県社協が全国に先駆けて、「福祉教育推進員」養成をしてきた。修了生がネットワーク「あったかウエルねっと」を結成し、これまで20年間にわたり、福祉教育推進を進めてきた。埼玉県の特徴は、推進員の対象を社協職員、学校教員、ボランティア、障害のある市民など幅広くとらえ、長期の研修を共に受講し、終了後も推進員として同じ立場で、学び合い、発信をしてきたことである。福祉教育における「協同実践」のモデルであり、県域や市町村での福祉教育推進プラットフォームをつくってきたといえる。また「若者への福祉教育研究会」などへ広がっている。

本シンポジウムでは、こうした埼玉県内の福祉教育・ボランティア学習の取組から、多様な立場の市民がどのように学び合い、学習と実践を紡いできたかを

検証し、これからの福祉教育・ボランティア学習の推進主体について検討した。

- ① 埼玉の特徴 →埼玉の地域福祉へ
  - ・市民が主体の福祉教育が育った
  - ・多様な立場の人たちが一緒に
  - ・リーダーシップ+メンバーシップ
- ② 継続した学びが軸になって広がっている  
→学びと実践の往還
- ③ 福祉教育を通してエンパワメントしている  
→変容：自分自身が変わってきた・周りが変わってきている・地域(学校)が変わってきている
- ④ 活動を通して何が課題か、見えてきた課題  
→福祉教育・ボランティア学習を広げていくためにどうするか。

### 《シンポジスト4名のプレゼンより抜粋》

**☆ふくし・共生の文化を創成する 坂本晃一氏**  
東京都・墨田区立菊川小学校主任教諭(埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員) プレゼンより

#### 1 福祉教育との関わり

埼玉県社協に8年間勤務の際、ボランティアセンターで「福祉教育担当」となったのがきっかけである。当時の福祉教育研究会で原田先生の助言を受けて、全国に先駆けた人材育成システム「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」を立ち上げ、業務の傍ら自ら推進員の認定も受けた。修了者の地域のネットワーク・活躍の場の必要性を感じ、修了者の横田氏(現ねっと会長・ボランティア)に相談し、「あったかウエルねっと」を創設。県社協退職後も教員・ボランティアの立場であったかウエルねっと世話人として20年間関わり続けている。また、県社協から小学校教員へ転職し、長年担任としてクラスの福祉教育実践を積み重ね、3年前から「特別支援教室 巡回指導教員」という立場になり、発達障害児童の個別指導を中心としたインクルーシブ教育を推進している。まさに「福祉教育でキャリア人生が変わった一人」である。

#### 2 福祉教育で大切にしてきたこと

- (1) あったかウエルねっと(推進員修了者の県域ネットワーク)との20年の関わり  
県域の団体が20年間継続することはとても難しい。人材育成の効果や団体継続の秘訣を考える。
- (2) 小学校教員としての実践と児童の変容

**☆生徒に任せることで繋がる学び 熊倉悠貴氏**

筑波大学附属坂戸高等学校福祉科(若福研会員) プレゼンより

VUCA(ブーカ)時代と言われる予測不可能な社会を生きる子どもたちにとっては、答えは与えられるものではなく、自ら新しい答えを創り出すことが求められている。それは言わば、理想を見つけて未来を自らの手で創りだしていくことである。高校福祉科の学びは、専門教科として、教養として、よりよい未来を創り出す生活主体として福祉を学ぶことが求められている。また、本校では持続可能な社会の実現に向けた人材育成を教育目標としており、福祉科の授業以外にも課題解決型のPBL(Problem-based Learning)の授業も設置している。その授業のなかでは、福祉科の授業を選択していない生徒も社会課題を設定し、その解決に向けたアクションプランを作成し、実際に社会の中で活動することをしている。

これらを目標と定めたとき、教員に求められる姿勢は「信頼して、任せて、支える」ことである。生徒自身が見つけてきた課題を深く掘り下げ、アクションに結びつけていくときには、外部の人の協力が不可欠である。そういった場合も、生徒のことを「信頼して、任せて、支える」ことで、新しい活動が始まり、現在本校では様々な生徒の自主活動が継続的に活動している。

**☆子ども支援と福祉教育 古賀和美氏**

三芳町社会福祉協議会/福祉教育・ボランティア推進員/社会福祉士・精神保健福祉士・准認定ファンドレイザー プレゼンより

#### 1. 埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員研修後の取組

- (1)福祉大学(2)福祉教育・ボランティア学習推進員養成講座の実施(3)福祉教育・ボランティア学習推進員定例会(4)教員向け研修(5)各学校に福祉教育担当を設置し年3回の会議(6)福祉教育サポートハンドブックの作成…※クリックすると三芳社協HP内のハンドブックが表示(7)福祉教育マニュアルの作成(視覚障害・車いす・高齢者疑似体験)
2. コロナ禍に立ち上がった子ども食堂
3. 配達型子ども食堂とヤングケアラー対策  
(子ども食堂に来ることができない子ども達への支援)
4. 大切にしてきたこと(誰かの役にたつ経験/自己肯定感の向上、ただ寄り添うというゴール目標の

ない支援)

5. 課題と自身の変化 (住民力を信じ、優しさや愛情を伝え続ける住民や地域に委ねる力を持った専門職や支援員へ)
6. 継続的な活動実践 (障害者や認知症、困難を抱えたこどもなど、直接ボランティアの継続的な活動実践)

### ☆福祉教育にかかわる視覚障害当事者の立場から 木野ゆずき氏

視覚障害者と仲間のあつまり・いどばた & 声なびシネマわかば代表 (埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員/あつたかウェルねっと副代表) プレゼンより

—福祉教育との関わり：自分事からの始まり—  
 障害者はサポートされる側という概念は 受け入れられない自分に気づき 学ぶことにより 自己肯定感の再構築は可能であることを知り 同じ問題を抱える仲間たちの意識改革の必要性に気づき 行動開始。

#### —現在の活動—

ア) 視覚障害者と仲間の集まり・いどばた  
 視覚障害者の自立と社会参加を目指して、学習会・研修会を重ね、自己選択・自己決定・自己責任のできるよう、学びあいながら、意識改革を誘導し続けて 17 年。参加者は県内外、市町村を超えて。会ではない「いどばた」は、会則も年間行事も、年会費もなく、メールリストを介して情報の提供と行事への参加は(他団体行事も含め)すべて自由。  
 ★いどばたで大切にしていることは ピアカウンセリングの基本に基づき時間は対等に。否定批判はしない、ここでの話は他言無用。相手を信じて任せればみんなできる人に変身★コロナ禍の活動はメールとズームでの情報交換と電話での安否確認  
 イ) 声なびシネマわかば

見えなくなっても、音声ガイドがついていれば劇場でみんなと一緒に映画を見て、泣いたり笑ったりしたいという仲間の声に答えて、音声ガイドボランティアを養成。13 年前、一緒に立ち上げた「声なびシネマわかば」では4つのチームを作り、役割を分担しあい活動している。

声なびシネマわかば <http://www.koenabi.net/>

—福祉教育で大切にしてきたこと—

福祉は双方向でなければならないことを踏まえて、当事者も失われた自己肯定感を、学習と体験の中で取り戻し、地域の一人として社会貢献できるよう、個人の可能性の発掘に努め、誰もが「生まれてきてよかった」と思えるよう福祉教育の一端を担える人材育成を常に目的としている。又、福祉教育とは無縁と思っているであろう地域のボランティアさんとは会を共に運営することにより、活動の中でごく自然に障害者理解を深め、地域で共に生きることの意味と重要性を伝え続けていきたい。

…等々に続いて、コメンテーター原田正樹氏より、埼玉の特徴は、20 年にわたり多様な立場を認め合い、「主体的な学びと実践」の往還と継続が「ふくし・共生の文化を創成する土台」になったと解説いただいた。

#### 埼玉企画【特別課題別研究①】


埼玉発！コロナ禍における社会福祉施設での福祉教育の展開

#### 埼玉企画【特別課題別研究②】

埼玉発！多様性を受け入れる地域づくりのために～すべての社協活動の基礎にある福祉教育・ボランティア学習の機能を問う～

※埼玉企画①②及び、2日目の自由研究発表については、次号に続きます。


## 報告 まなひぼしゃべりほカフェ

多様なつながりをテーマに様々な立場の方に話題提供して頂きました。どの回もオンラインでおこないました。  …話題提供者・報告者

### 2021 年度夏カフェ(その2)

増え続けている「医療的ケア児」を知っていますか？  
 ～医療的ケアのある子どもたちと家族の笑顔のために～

日時：7月24日(土曜) 午前10時～11時30分

 藤川友子氏(代表)、塩野紀代美氏、前島志保氏、飯島真紀氏 (NPO 法人 mamacare ママケア)

医療的ケアのある子どもたちと家族の笑顔のため活動しているママケアの4人の方が登壇。医療的ケア児との日常を動画に合わせた会話形式で語っていただきました。妊婦の高齢化、医療

の進歩で乳児死亡率が減り、後天的な疾病や事故による死亡率も低下。長期的に医療の助けを必要としながら在宅生活を送る子どもたちが増えている現状を知り、成長段階や兄弟家族周囲それぞれの「ふだんのくらしのしあわせ」を深く考える機会となりました。(21名参加)

**2021年度夏カフェ(その3)**  
**社会福祉協議会と**  
**福祉教育・ボランティア学習推進員の連携**  
**～東松山市社協が発信しているYouTube動画**  
**には福祉教育のヒミツがいっぱい!～**

日時:8月19日(木曜)午後1時30分～午後3時  
 中島 満氏(東松山市福祉教育・ボランティア学習推進員)、  
 紫村 元尚氏、百瀬 諒介氏(東松山市社会福祉協議会)

福祉教育の教材としてYouTube配信を進めてきた経緯、作成の意図や教材に活かすヒントを伺いました。誰にも伝わりやすく小中学校の授業でも役立ち、いつでも見ることができるという強みも再認識しました。(19名参加)

**2021年度秋カフェ**  
**ともに考えよう! AYA世代のがん理解と支援**  
**AYA世代ってご存じですか?**  
**～若くしてがんと闘う世代～**

日時:10月10日(日曜)午前10時～11時30分  
 三浦聡至氏(埼玉医大国際医療センター  
 AYA支援チーム)

「埼玉発!地域で生きる多様な方々からの発信」(8月29日に若福研が実施。6頁参照)で登壇されたAYA支援チームの三浦聡至氏にお話を伺いました。アンケートでは看護職以外のほとんどの方が知らないと答えた「AYA世代」。

・選択肢も制度も少ない世代であるを知った・普段は関わりが少ない・だからこそ学んでいく必要がある・意志決定支援の大切さを感じた等の感想からも新たな気づきや知識・情報に出会う大切さが浮き彫りになりました。今回は、在宅医療関係者や看護学生の参加があり、AYA世代への関心の高さを感じました。(22名参加)

※AYA(アヤ)世代とは、Adolescent&Young Adult(思春期・若年成人)のことで15歳から39歳の方をさします。

**2021年度冬カフェ(その1)**  
**第27回埼玉大会を振り返って**  
**日本福祉教育・ボランティア学習学会 報告その1**  
**「多様な立場の市民が創る、ふくし・共生の文化」**

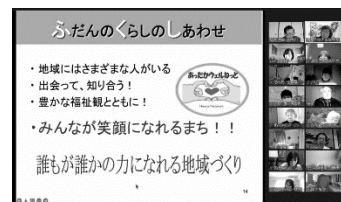
日時:2022年1月18日(火曜)14時～15時30分  
 横田八枝子氏(埼玉大会大会長・あったかウェルねっと代表)  
 小川和広氏(埼玉大会実行委員・川越市社協)  
 牧野郁子氏(埼玉大会実行委員会事務局次長・鶴ヶ島市社協)

学会参加を振り返って報告会をおこないました。(14名参加)  
 \*1～5頁「学会報告・プレ企画報告」を参照。

**2021年度冬カフェ(その2)**  
**ねっと設立から20年!**  
**～福祉教育実践で大切にしてきたこと～**

日時:2022年1月29日(土曜)14時～15時30分  
 横田八枝子ねっと代表、坪井敏衛ねっと相談役

対談形式で、設立からの活動を振り返りました。(16名参加)  
 \*YouTube動画の作成を予定しています。



ZOOMの画面共有で分りやすく!

次回のまなびばしゃべりばカフェは日程が決まり次第、お知らせします。皆様からの企画のお申し出もお待ちしています。

**若福研究会コーナー**

**報告**  
**プレ企画 埼玉発!**  
**コロナ禍における福祉教育の展開**

2021年8月29日に日本福祉教育・ボランティア学習学会埼玉大会のプレ企画として、若者への福祉教育研究会が主となり実施しました。テーマは「埼玉発!コロナ禍における福祉教育の展開」コロナ禍での福祉教育実践について、学び合い参加者は63名となりました。

第一部は、これまで「若者への福祉教育研究会」で継続的に研究会を重ねてきた社会福祉施設での



コロナ禍での福祉教育実践を報告し合いました。発表者は①鶴ヶ島市立西中学校 石川先生②特別養護老人ホーム鶴ヶ島ほほえみの郷③社会福祉法人ハッピーネット鶴ヶ島ゆめの園④社会福祉法人特別養護老人ホーム杜の家やしお⑤社会福祉法人特別養護老人ホーム桜荘⑥三芳町社協でした。

また、第二部は「埼玉発！地域で生きる多様な方々からの発信」と題し、はじめに、若者ボランティアの研究について、川田氏から報告とヤングボランティアグループコスモスの実践報告を実施。その後、リレートークとして、①発達凸凹②車いす利用者③医療的ケア児④AYA支援チーム⑤ギャンブル依存症家族⑥性同一障害者・トランスジェンダー⑦埼玉 IBD 炎症性腸疾患患者会といった多様な活動を行っている方々から報告をいただきました。

埼玉らしさの福祉教育の展開、多様な方々が主体となる学び合いの場が実現できたプレ企画となりました。

## 県社協からの情報

### 地域福祉推進プラットフォームについて

本会では、今年度より県域の福祉教育の推進と“埼玉らしい福祉教育”を目指して、県域の福祉教育プラットフォームとして、自由な学びと多様な関係者のつながりづくりを目的として、「地域福祉推進プラットフォーム」を立ち上げました。

プラットフォームには、全社協主催の「全国福祉教育推進員研修」を受講し、福祉教育推進員に認定された10人の市町村社協職員とあったかウェルねっと須田様にも企画と運営にご協力いただき、8月に開催したキックオフセミナーを含め計4回開催しています。

ご参加いただいた皆様へ感謝申し上げますとともに、これまでの実績を御報告いたします。

### 8月18日開催 キックオフセミナー

テーマ「オール社協で創る！地域共生社会の実現～“地域福祉推進プラットフォーム”キックオフセミナー～」

講師：日本福祉大学 社会福祉学部社会福祉学科 教授 原田正樹氏

参加者：85名

### 10月28日開催

#### 第1回地域福祉推進プラットフォーム

テーマ「福祉教育についてみんなで考えよう！～福祉教育こそオール社協で～」

アドバイザー：寄居町社会福祉協議会 常務理事 矢部吉春氏

参加者：69名

### 12月18日開催

#### 第2回地域福祉推進プラットフォーム

テーマ「現役教師から学ぶ福祉教育実践プログラムの基本！～社協と学校がわかりあえるために～」

講師：墨田区立菊川小学校 坂本晃一氏

参加者：44名

### 令和4年2月18日開催

#### 第3回地域福祉推進プラットフォーム

テーマ「コロナ禍で見た多文化共生～国籍を超えて支え合える地域づくりに向けた身近な取り組み～」

講師：獨協大学 国際教養学部言語文化学科教授 岡村圭子氏

NPO法人 ふじみの国際交流センター  
理事長 石井ナナエ氏

※いずれの回もオンライン開催

## 事務局情報

### 会費振込先のお知らせ

ねっと活動は会費(年1000円、賛助会員一口500円)で運営しています。今年度から会費納入方法が変わり、原則として口座振り込みとなりました。振入手数料についてはご負担をお願いいたします。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店

普通預金口座番号：5015782

名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

### 編集後記

前号から期間が開いてしまい、その分盛りだくさんな内容になりました。自粛自粛の情勢です。お時間のあるときにゆっくりご覧ください。春はすぐそこに…。

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク(通称:あったかウェルねっと)

編集：あったかウェルねっと(情報担当)

連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課

TEL：048-822-1435 FAX：048-822-3078

Mail：vc@fukushi-saitama.or.jp